

令和8年熊本地震から考 えるこの夏の災害の備え

2. 「車中泊避難」の環境整備と 事前防災

令和8年熊本地震でお亡くなりになった方々に謹んで哀悼の意を表するとともに、被災された皆様に心よりお見舞い申し上げます。

発災から10日余りが経った今も余震が続く、多くの方が避難生活を余儀なくされています。40度近い猛暑も重なり、被災地では厳しい状況が続いています。

今は何よりも被災地の復旧・復興を最優先に取り組むべき時です。同時に、今回見えてきた課題を真摯に受け止め、今後の災害への備えに着手に生かしていくことも、私たちの責任です。

私は豊橋生まれの国会議員として、東三河をはじめとする愛知県も南海トラフ地震への備えが求められる地域だからこそ、その取組を一層進めていかなければならないと考えています。

1. 猛暑から命を守る「クーリング シエルト」の活用

熱中症から命を守る手立ての一つが、「クーリングシエルト」（指定暑熱避難施設）です。熱中症特別警戒アラート発令時に、冷房設備を備えた公民館やショッピングモールなどを一般開放する仕組みで、災害時においても、こうした既存の公共施設や民間施設を柔軟に活用することとは、避難者の命と健康を守る有効な取組です。

3. 避難所の隠れた課題「トイレ 問題」

もう一つ、見落としはならないのがトイレの問題です。避難所では、トイレの衛生環境へ

一方で、プライバシーの確保やペットとの避難など、様々な事情から、やむを得ず車中泊を選ぶ方も少なくありません。

このような現実を踏まえ、政府は令和6年6月の防災基本計画改定で、自治体に車中泊避難スペースの事前確保を求めました。これを受け、熊本市は今年3月、全国で初めて「車中泊避難ガイドライン」と運用マニュアルを策定。今回の地震では、

発災翌日から車中泊避難場所を開設しました。事前に運用を整えていたからこそ実現した対応であり、今後の災害対応にも生かすべき重要な教訓です。

ただし、真夏の車中泊には熱中症やエコノミークラス症候群などのリスクがあります。やむを得ない場合の選択肢として備えつつも、冷房のある避難所やホテル・旅館などで安心して過ごせる環境を確保することが重要です。ホテル・旅館との事前協定など受入れ体制を整え、車中泊に頼らざるを得ない方を一人でも減らしていくことが、災害関連死の防止につながります。

4. 事前防災を「日本の標準装備」に

災害は、私たちが想定していなかった課題や、備えの不足していた部分を浮き彫りにします。だからこそ、災害が起きる前にできる限りの準備を進める「事前防災」が、一人でも多くの命と健康を守る鍵となります。

東三河の皆様の安全・安心な暮らしを守るため、これからも現場の声を踏まえ、避難環境の改善と事前防災の強化に全力で取り組んでまいります。

ご家庭でも、この夏を機に、水や食料の備蓄、避難経路の確認など、災害への備えを改めてご確認いただければ幸いです。



H.P. YouTube Twitter Facebook Instagram



やまもと・さとし

愛知県豊橋市出身。1982年7月9日生まれ。44歳。豊橋南高校卒業、南山大学。11歳、レーシングキャリアスタート。19歳、単身渡欧。24歳、当時日本人最年少F1ドライバードビュー。30歳、帰国後、医療介護福祉の世界に。医療法人・社会福祉法人さくらびグループの統括本部長就任。2019年第25回参議院議員通常選挙（比例代表）に自民党公認で立候補し、落選。2021年第49回衆議院議員総選挙（東海ブロック比例代表）に自民党公認で立候補し初当選。当選直後から、合成燃料の国産化の必要性を訴え、3年以内に日本初の実証プラントの稼働を実現した。また、2022年8月、初当選後一年に満たない中、文部科学大臣政務官兼復興大臣政務官に異例の抜擢。科学技術・文化の担務を中心に活躍。2024年第50回衆議院議員総選挙にて落選。2026年第51回衆議院議員総選挙にて2期目の当選。英語スペイン語を話すマルチリンガル。

衆議院議員

山本左近

被災された皆様に、心よりお見舞い申し上げます。そして、今なお人命救助にあたられている方々、ご自身も被災されながら尽力されている公務員やボランティアの皆様をはじめ、現場に関わるすべての皆様の無事をお祈りいたしますとともに、心からの敬意と感謝を表します。

令和8年熊本地震により被害を受けられた被災者を支援するため、**熊本県庁の義援金口座**が開設されています。皆様の温かい支援の一つとしてご活用ください。

義援金受付期間（予定）は、令和8年(2026年)7月29日～令和8年(2026年)10月30日

肥後銀行 県庁支店 普通預金 1700669（金融機関コード：0182 店舗コード：159）

【口座名義】 令和8年熊本地震義援金（熊本県） 熊本県知事 木村 敬

【フリガナ】 レイワハチネンクマモトジシンギエンキン（クマモトケン） クマモトケンチジ キムラ タカシ

災害から命を守る「事前の備え」完全ガイド

災害への備えは特別なことではなく、日々の暮らしの中での準備が命を守る力になります。
「自分・家族」「地域」「職場・学校」の3つの視点から、事前の家具固定、備蓄の確保、連絡手段の確認を徹底することが重要です。

家庭の安全と生活維持の備え

「家具は必ず倒れるもの」と考え固定する

寝室に家具を置かない、またはL字金具や突っ張り棒などで固定する



最低3日分、できれば1週間分の備蓄を



飲料水は1人1日3Lを目安とし、日常的に消費しながら買い足す「ローリングストック」を推奨。

家族間の安否確認ルールを事前に決める



災害用伝言ダイヤル「171」や伝言板の使い方を練習し、複数の集合場所を決めます。

非常用持ち出し袋の準備

避難時に

「自分に必要な物」を厳選する

貴重品、常用薬、お薬手帳、モバイルバッテリー、感染症対策グッズをリュックにまとめます。



対象者別の

特殊な備えを忘れない



乳幼児には抱っこ紐や離乳食、高齢者には老眼鏡や入れ歯洗浄剤、ペットには5日分の食料を用意。

玄関や寝室など、すぐに持ち出せる場所に配置



家の倒壊も想定し、車の中や物置など複数箇所に分散配置することも有効です。

非常用持ち出し袋の重量目安



朝の駅頭は、皆さまの声を直接伺える貴重な機会です。現場でいただいた一つひとつの声を力に変えて、国政で結果を出せるよう取り組んでまいります。暑い日が続きますので、熱中症等に気をつけてどうぞご自愛ください。



8月2日に高豊生涯学習センターで、24回目の豊橋市内のミニ集会を開催しました。地域のご要望も多く伺い、国と市との更なる連携の重要性を改めて感じます。一つひとついただいた課題を着実に前に進められるよう市と連携して取り組んでまいります。

JAPAN as No.1 Again!

日本を再び世界一の国へ



各地域で夏祭りや納涼祭が開催されています。皆さんと一緒に盆踊りを楽しく踊らせていただいています。豊川駐屯地林司令とのツーショット。日本や地域の安心安全をお守りくださっている自衛官の皆様へ心から敬意と感謝を申し上げます。



中部国際空港隣接の愛知スカイエキスポで開催された学生フォーミュラ日本大会を視察。学生が自ら構想、設計・製作した車両で競い合う大会です。今年で第24回を迎え、国内外から約80チームが参加。日本のものづくを担う若い世代の挑戦を、これからも全力で応援してまいります！